

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792200016		
法人名	(株)エコ		
事業所名	グループホーム なでしこ ユニット 1		
所在地	岩瀬郡鏡石町高久田136-1		
自己評価作成日	2020年9月5日	評価結果市町村受理日	令和2年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和2年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

場所も旧道沿いで分かりやすく民家の中に有って地域の方々との関わりがあり、楽しく安全 安心した生活が送れています。周辺には果樹園農家さんが多く、おいしい果物を頂くこともあります。小さな畑がありますが近所の方が野菜の苗を持ってきて下さったり肥料のやり方や育て方を教えて下さり本当に地域密着のホームです。今年は、コロナウイルス感染症でボランティアの方々には遠慮して頂いていますが、終息した時にはまた、地域の方々に声掛けし、来ていただけるよう今から、予約しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.スタッフが順番で講師になり、身体拘束についての弊害や禁止事項について職場内研修をし内容の共有に努めている。スピーチロックなど言葉による拘束も管理者と一緒に考える機会を設け防止に努めている。玄関は日中施錠せず見守りで対応している。
2.契約時に事業所の「重度化や看取り指針」に基づき事業所で出来ることを説明し、意向を確認している。状態が変化した場合も話し合いを持ち、意向確認するとともに看取り支援も行っている。職員に対し看取りについて研修を行い対応できる環境を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の見やすい所に掲示し毎朝の申し送り時に唱和している。	昨年スタッフ会議で話し合い理念の見直しを行い、利用者の穏やかな生活を目指す内容に変更した。申し送り時に唱和し共有に努めている。また、職員は利用者がストレスをためないように聞き役になるなど実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が野菜の苗や肥料を持って来て下さり玄関先で受け取っている。班の回覧板や町の防災無線で情報を共有している。	町内会に加入し行事やお祭りに参加している。区長の働きかけで行政無線も入り役場からの情報も得ている。近所の方から野菜が届くなど近所とのつきあいや交流がある。コロナ以前は子ども神輿や傾聴ボランティアなどの訪問があり日常的に交流がなされていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方が来て下さった時などに認知症への理解を深めていたが、今年はコロナウイルス感染症の為ホームへは自粛して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月にいちどの会議の中で出た意見は、スタッフ全員に周知し、サービスの向上に活かしていたがコロナウイルス感染症の為、資料のみお送りしその中に意見や要望等の提案書を入れて返送して頂いた。回答もしました。	定期的開催し、委員から地域のイベント情報を得るほか保育園児の訪問依頼の働きかけなど協力が得られている。また、ヒヤリハットについても詳しく報告し理解を得ている。現在は書類を送り、書面で意見をもらうなど工夫して取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールや電話等でこまめに情報交換している。	行政担当者が運営推進会議に参加しており、事業所の状況を把握してもらっている。また、随時メールや電話で相談できる関係が築かれており、家族からの介護保険についての疑問点なども担当から回答をもらい家族に説明することも行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内で研修会を開き、身体拘束をしないケアを実践している。	スタッフが順番で講師になり、身体拘束についての弊害や禁止事項について職場内研修をしている。スピーチロックなど言葉による拘束も管理者と一緒に考える機会を設け防止に努めている。玄関は日中施錠せず見守りで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士言葉・動作に気をつけ常に情報を交換しながら注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修に参加したスタッフがスタッフ会議等でその内容を報告し、活用できる様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者やケアマネが十分に説明し理解を頂いている。その中で質問等にも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染症の為面会に来た時に、シートカバー越しに短時間での面会をして頂いているが、今は家族様からの言葉に励まされている。	管理者は家族の面会時に言いにくいことでも何でも話してほしいと伝え、相談や苦情を言いやすい環境づくりに努めている。コロナ禍でも短時間ながら回数制限なく面会できる環境にある。オンライン面会もあり家族から意見を頂くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナウイルス感染症の為全員がフェイスシートを付け、スタッフ会議を行いスタッフ全員に発言してもらい何でも相談できるような雰囲気を作っている。	管理者・ブロック長による面談があり、職員から要望や悩みを聞いている。管理者は職員会議で時間を作り一人ひとり発言してもらうなど風通しの良い職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コロナウイルス感染症の為、資格取得時の機会や研修などに参加できない状況の為三密を避けながら職場の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	普段から話し合いの場があり意見や提案を存分に発言出来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症の為、外部からの講師は無理だが社内での研修を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時とか、本人 ご家族様より意見や希望を聞き、安心した生活を送って頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の要望を聞き、小さな事でも報告し、不安なく安心した生活を送って頂けるよう努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時に、ご家族様からの希望などに応じられるよう努力し、他のサービス利用も含め対応出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	笑顔で安心して過ごして頂けるよう声掛けをして出来る事は手伝って頂き、本当の家庭の様に接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染症の為、面会は無理ですが、ご家族様に毎月お便りで近況をお伝えしたりスマホで動画を送り見ていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症の為、近所の方やお知り合いの方には、自粛して頂いている。	コロナ禍にあり、知人や友人、馴染みのボランティアなどの訪問を中止している。それに代わるものとして、事業所の畑や駐車場で日光浴をしたり、法人のバスドライブ、少人数で車に乗り自宅や利用者の思い出の場所を訪問する等支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の声掛けを通して、利用者様同士が関わりが持てる様働きかけている。又 利用者様同士の関係性等職員間で情報を共有している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に来所して頂けるような環境作りや声掛けをしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安心して生活が送れるよう、希望や意向を把握し、申し送りやカンファレンスで共有している。一人ひとりの意向に沿ったケアを行っている。	本人の希望を連絡帳に記入し職員間で共有し、希望内容を毎日の日課に入れ実現に努めている。入居間もない帰宅願望の強い利用者には留守電にかけることで落ち着くなど一人ひとり意向や状況を確認し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの家具や日々の会話から何を求めているかを聞き取り今までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子や状態などを、申し送りで情報を共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議等で利用者様、家族様からの希望や要望を、職員同士で話し合い利用者様に合った計画書を作成している。	介護計画は定期的に利用者・家族の具体的な希望を入れるとともに、担当者のモニタリング結果を基にケース会議で話し合い、それを活かして計画担当が作成している。変更点に蛍光ペンで印を付け、全職員に回覧し内容の共有を図っている。退院時や状況変化時は随時見直すなど現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の現状を把握を十分に行い、日々の変化を見逃さず記録し情報を共有しながら介護計画書の見直しに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況を把握しスタッフで対応出来ることは(通院等)柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	管理者を中心に地域資源の把握に努め、一人ひとりに合った資源が活用できる様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様とご家族様の希望するかかりつけ医を選択して頂いている。受診時には生活の様子等をお伝えしている。	利用者・家族の希望するかかりつけ医を選んでいる。殆どの利用者は、月1回往診を実施している協力医療機関を選んでいる。なじみのかかりつけ医を継続受診している利用は、家族と事業所で同行支援している。受診結果は記録や毎月のお便りで家族に報告し、相互共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週医療連携の看護師が訪問され健康状態を診ている。その記録をご家族様に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には ホームでの状況を伝え、入院中も病院と連絡を取り状態を把握している。又 退院後も状況にあった対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事前確認している。又 入所後も定期的に意向に変化が無い確認している。	契約時に事業所の「重度化や看取り指針」に基づき事業所でできることを説明し、意向を確認している。状態が変化した場合も話し合いを持ち、意向確認するとともに看取り支援も行っている。職員に対し看取りについて研修を行い対応できる環境を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	二ヶ月に1回本社からきていただき、救急訓練を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防火管理者が主体となり、消防訓練を実施している。年1回は消防署立会のもと訓練を行なっている。	年間計画を策定し、火災(昼・夜間想定)、地震、風水害を想定した訓練と心肺蘇生(AED含む)訓練を実施している。課題であった地域の方の協力を得ながらの訓練を計画していたが、コロナ禍で実施できなかった。しかし、運営推進会議メンバーの協力体制は構築されている。非常用備蓄品も備蓄している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が声掛けや言葉使いに気をつけ十分配慮している。	プライバシー保護マニュアルを整備し、利用者の意向を尊重した意思決定と誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに留意している。不適切な対応等については、管理者による確認や会議の中で話し合える環境を作っている。書類は書庫で施錠管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や、食べ物 衣類等をご自分の好みを選んで頂く様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や居室で過ごされる時間等個人個人の希望で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や毎日の更衣時には、ご自分の好みの物を選んで頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事はチルド食の為10日、20日はカレーの日として旬の食材を使いながら出来る限り対応している。又 行事食では鰻丼等を提供している。	献立・食材は外部業者へ委託しチルド食を導入(セレクト可能)している。ご飯・みそ汁は事業所でつくり、利用者の誕生会や季節の行事食等は利用者の好みを反映し、手作りケーキ・ちらし寿司・鰻丼等、季節と食べる楽しみを感じていただける食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を観察し記録している。栄養状態が維持出来る様努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは声掛け、誘導し見守りながら行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けをし、誘導して排泄のパターンを把握している。	自立排泄ができる利用者が多い。排泄記録を基に定期的な声かけや見守りを行い、出来るだけトイレで自立にむけた排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いてパターンを把握し、水分摂取も声掛けしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤等何種類も準備したり 又 CDを聞きながら等 利用者様の好みで対応している。	週2回、利用者の希望に沿った入浴ができるよう支援している。利用者に好み入浴剤を選んでもらい、気分良く入浴していただけるよう、昔の話などの会話をしながら支援している。入浴を好まない利用者には、シャワー浴や足浴など対応を代え工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温を利用者様の好みに調整し安眠出来るよう支援している。天気の良い日には布団を干したり乾燥機を使用し気持ちよく休める様対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬の説明書をファイルにまとめ何時でも確認できるようにしている。変化が見られるようなときには主治医と連絡が取れる様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日洗濯物を畳んだりして頂いている。又ラジオ体操や口腔体操を行っている。天気の良い日には外に出て畑仕事や日光浴をして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのオレンジカフェに毎月出かける支援をしていたがコロナウイルス感染症の為、時間を見つけ駐車場で外気浴を行っている。	毎月定期的にオレンジカフェに参加していたが、今年はコロナ禍で外出を自粛している。できるだけ外気に触れ、敷地内散歩やプランター栽培等で、気分転換が図れるよう支援している。また、法人のバスや事業所の車でドライブを楽しめる取り組みを行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染症の為、今は外出を自粛している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様から電話が来た時にが本人様に取り次ぎ又御自分で電話連絡したいと言われる時にはいつでも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が快適に過ごして頂ける様に、温度調節を行ったり時には窓を開けたりして工夫している。季節ごとにホールの装飾を替えたりして季節感を味わって頂いている。	共用フロアには、テーブルコーナーとソファを配置し、壁面には季節を感じさせる装飾を行い、居心地良く過ごせるよう配慮している。湿度・温度を記録し、手摺り等の滅菌清拭を全職員で徹底して行っている。また、玄関で体温測定、手指消毒及び上履等消毒を徹底して行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルごとに気の合った方たちに坐って頂いたり、又 ソファに座って頂いたりしてと工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	各居室には鍵がありプライバシーは守られている。入所の際には、慣れ親しんだ物を持参した頂いたり、環境作りをしている。居室にはその方に合った張り紙をしたり心地よく過ごして頂いている。	鍵付居室でトイレ・クローゼット・ベットを備品として整えている。利用者・家族の意向や生活動線に配慮したベットや家具の配置を行っている。利用者はテレビや冷蔵庫、ラジオ、時計等を持ち込み、壁面には手芸品や塗り絵、家族写真を飾り、居心地良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来る事、やりたいことを見出して少しでも自立した生活が送れるよう工夫している。		